

作文学習における自己省察という評価方法

A Self-Reflection-Based Assessment Method In Composition Learning

Frida Philiyanti¹, Yuniarsih²

Universitas Negeri Jakarta

fridaphiliyanti@unj.ac.id¹, yuniarsih@unj.ac.id²

本研究は、作文の授業における自己省察の有用性について、学生と教員の両者にとっての利点を明らかにすることを目的としている。本研究のきっかけとしては作文授業において学生と教員の双方が直面している困難である。学生の視点から見ると、作文における主な困難は、語彙力や文型、アイデアの展開や与えられたテーマに適したトピックの発見の難しさ、そしてテキスト構成の判断の難しさなどが挙げられる。一方、教員の側では、学生の作文の評価や添削が最も困難である。Biggs (2014)によれば、「コンストラクティブ・アラインメント (constructive alignment)」のアプローチでは、学習目標を達成するためには、指導方法と評価方法との整合性が必要であるとされている。作文学習における評価は、授業中だけでなく、学習の終了時にも行うことができる。自己省察は、学習の過程および終了時のいずれにおいても実施可能な評価活動の一つである。Bond, Keogh and Walker (1985)によれば、リフレクション (内省) とは人間の重要な活動であり、個人が自身の経験を振り返り、それについて考察し、評価を行うプロセスである。矢若 (2004)の研究によれば、授業中の記録 (学習ノート) は学生に大きな影響を与えることが示されている。本研究は質的アプローチによる研究方法を用いて分析を行う。研究の成果は作文授業における困難を乗り越えるうえで、学生だけでなく教員にとっても有益な自己省察の利点の概要を提供することを期待している。

キーワード: 作文の授業、自己省察、評価